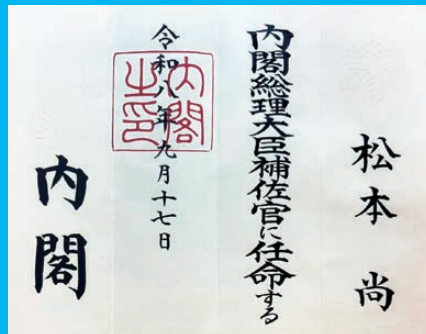




高市総理からの任命書

医の心で国を守る

内閣総理大臣補佐官 前デジタル大臣 衆議院議員

日本医科大学特任教授
千葉県医師会顧問



干桑宗匠即云顧問

松本ひさし通信

MATSUMOTO Hisashi, MD, PhD, MBA

〈発行〉松本尚政策会議 〒270-1345 千葉県印西市船尾1380-2 TEL:0476-29-5099 FAX:0476-85-4199

討議資料



熊谷知事に対応策を進言



栄町の破堤部を視察

台風25号の豪雨によってお亡くなりになられた方のご遺族にはお悔やみを申し上げますとともに、被災された皆様にはお見舞い申し上げます。

印旛沼の堤防が決壊し、周辺地域に大きな浸水被害が発生しました。

まずは自治体の首長さんたちと連絡を取り、被災現場を視察しました。国土交通省緊急災害対策派遣隊（TEICIFORCE）の派遣要請や排水ポンプの手配を行い、また、次なる災害にも備えて避難所の環境改善や危険地域のピクアップなどを進言しました。

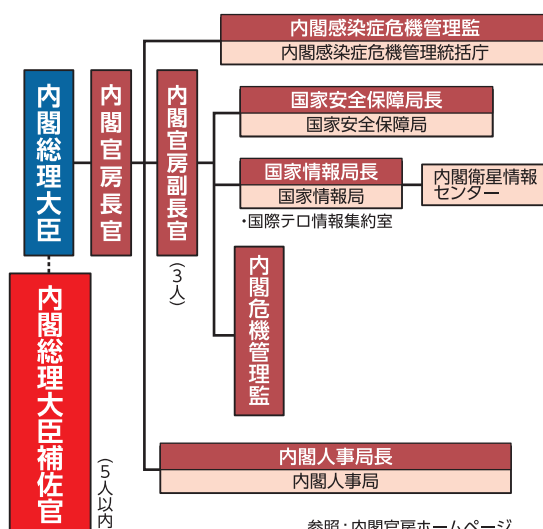
酒々井町の盛り土の大規模な崩落被害は一町だけでは対応できません。白井市や我孫子市にもメディアが取り上げない冠水地域もありました。このような取り残されない地域の拾い上げも忘れてはならないと実感しました。

引き続き自治体と連携して対応してまいります。

台風25号による
災害対応

この「特定のもの」について私には、①物価高対策、②責任ある積極財政、③デジタル政策の担当を総理から指示されました。①②については、高市政権の二丁目一番地の政策であり、これを総理の傍らで進める重責を担うことになりました。また③は、総理が留任を望んでいた私の意を汲んでくださった結果です。デジタル大臣として中途となった仕事を前に進めていければと考えています。

■内閣官房の組織図



参照・内閣官房ホームページ

総理補佐官は、総理大臣直属のスタッフの一人であり(図)、内閣法に「国家として戦略的に推進すべき基本的な施策その他の内閣の重要政策のうち特定のものに係る企画及び立案について、内閣総理大臣を補佐する」(第21条第2項)と書かれている通り、いわゆる「総理側近」の立場となります。

総理補佐官とは？

9月17日に高市内閣は閣僚人事を行いました。私は「内閣総理大臣補佐官」に任命され、デジタル大臣に引き続きそのまま政権の一員として、今度は首相官邸の中で仕事をすることになりました。

閣僚を退任後に総理補佐官に就く異例の人事（9月18日付読売新聞）ですが、連続して政権を支えるメンバーの一人に選ばれたことは光栄であります。国会議員になつて以来、官邸内で仕事をすることを希望していましたので、良い機会を与えられました。総理の期待に応えられるよう職務に励んで参ります。

内閣総理大臣補佐官に就任

総理補佐官は閣僚とは異なり国会答弁や定例の記者会見もありません。官邸のバックヤードで総理を支える「裏方」です。官邸内のことは公におやけにできないことも多いでしょう。それ故に国民の皆さんには何をしているのかよく分からない、ほとんど目立つことのない役職だと思えますが、政策を前進させ、「日本列島を強く豊かに」するために全力でその職責を果たしたいと思います。

デジタル大臣としての1年間

閣僚からの退任にあたり、大臣としてやってきた主な仕事を振り返ります。

まず、政府が内製した人工知能（ＡＩ）である「源内」を国家公務員 18 万人が利用できるようにしました。このＡＩによって国家公務員の業務の効率化、高度化が進むことが期待され、実際に、例えば国会答弁のための資料収集、答弁案の作成にＡＩを活用しました。もちろんＡＩの作った答弁書をそのまま読み上げることをしてはいけません。ＡＩによる答弁案を官僚が修正し、最終的には私自身がそれを参考に自分の言葉で答弁をしました。が、少なくともそこに到るまでの官僚の皆さんの作業負担の軽減につなげられたことは間違いありません。

医療ＤＸは、病院や診療所の電子カルテ化とサイバーセキュリティ対策の遅れを取り戻すため、2028年度までの作業の内容と工程を確定させました。さらには医療が経済安全保障上の基幹インフラになることを受け、大学病院のシステムのクラウド化に向けたソフト開発の目途を立てました。医療ＤＸの推進は総理からも

印西事務所 自由民主党千葉県
第十三選挙区支部

〒270-1345
千葉県印西市船尾1380-2
TEL.0476-29-5099
FAX.0476-85-4199

国会事務所
〒100-8981
東京都千代田区永田町2-2-1
衆議院第一議員会館1009号室
TEL.03-3508-7295
FAX.03-3508-3505

松本ひさしの活動は、ホームページやSNSで発信中!



松本ひさし 検索

matsumotohisashi.com

[ホームページ](#)

X

Facebook

 YouTube

LINE
公式アカウント



総理官邸での補佐官就任式で高市総理と

特別に指示されていた案件ですので、これに一定の目処をつけられたことは大きな功績となりました。

今年の臨時国会では「就業者負担軽減支援金制度」の法案が審議されます。デジタル庁にはこの支援金が迅速で確実に給付されるためのシステムを構築することが求められます。制度が決まってから構築を始めたものでは予定される令和11年度に間に合わなくなることから、2月からスタートした社会保障国民会議の議論を横目に見つつ、制度の決定前から給付システムの構築に取りかかったことは、適切な判断と指示ができたと思っています。

防災DXについては、昨夏にデジタル庁が創設したD-CERT(災害派遣デジタル支援チーム)を7月28日に発生した熊本地震で初出動をさせました。現場のデジタル分野でのニーズの収集と現地チームと霞ヶ関の本庁が協働してのアプリケーションの作成、被災自治体へのA「源内」の提供など、初めての経験ではあったものの大きな成果を上げたと思います。同時に今後の課題も抽出でき、次の災害派遣に備えてD-CERTの業務内容や出動体制等々、平時からの準備をしておくよう指示を出しました。

バーセキュリティに関しての覚書の締結や更新をしました。とりわけこれらの分野の人材育成についてはどの国も同じ課題を抱えており、今後は互いの取組について情報共有していく旨の合意も行えました。特にサイバーセキュリティはもはや一国だけでは行い得るものではありません。担当大臣としては、価値観を共有する同志国が一体となつて活動する枠組みの素地を固めることができました。

日本成長戦略

日本成長戦略は高市内閣の重要政策ですが、デジタル・サイバーセキュリティ、創薬・先端医療の2つの分野での戦略の策定を担当しました。目覚ましい進歩をみせるAを抜きに戦略を考えることはできず、とりわけ「A医療・介護と「A自動運転」の二つにおいては世界で勝負するための「仕掛け」をしました。

「A医療・介護」については、単にAを使った診断補助や治療支援の医療機器開発に留まらず、Aロボット(いわゆるフィジカルA)による完全手術ロボット、完全内視鏡ロボット——定型的な手術や内視鏡検査はすべてロボットが行う——や介護領域においては要介護者の排泄処理を行うロボットなどの開発や量産化を目指すものです。

「A自動運転」は、レベル4の完全自動運転(1)の自家用車(2)を海外展開(3)させる①②③の柱を、我が国の自動車メーカーとA開発事業者の共通目標とさせ、「A医療・介護」とともに将来、日本に国益をもたらす産業とすることを掲げました。

これらはかなり「野心的」なものです。しかしながら、A開発で米中に大きく遅れをとっている我が国がそれ



大臣としての退任挨拶

国家公務員制度改革

国家公務員制度担当大臣としては、国家公務員が「働きがい」のある環境を作るために内閣人事局のスタッフとともに知恵を絞りました。

橋本政権時の行政改革以降、霞ヶ関官僚への過剰接待、小泉政権時の「小さな政府」論、消えた年金問題などを経て、「官僚」税金泥棒、既得権益」という世論のイメージが広がってしまいました。厳格な倫理規定の実施もあつて今では国家公務員に対する批判はかなり和らいではいるものの、大学生の就職希望の減少、若手職員の早期退職など人材不足に悩まされています。一方で、国の政策立案に係わりたい、国家のために仕事したいという学生さんや、転職して国家公務員の中途採用を希望する社会人も多くいるのです。

私は、高度成長期がそうだったように、国家公務員が再び選ばれる職業となるよう、「国家公務員バリューアッププロジェクト」を策定しました。また、「A時代の国家公務員の在り方に関する検討会」を立ち上げました。これらの政策を途中で後任に委ねる

改正個人情報保護法の成立

ことになったのは残念なのですが、私の作った取組が実を結ぶよう、大臣離任後も関与を続けたいと思っています。

最後にも一つ。閣僚の仕事のうちで重要なのは「法律を成立させる」ことです。先の特別国会で個人情報保護法とデジタル行政推進法の改正案を成立させることができたことは私の業績の一つとなりました。特に前者の改正は、A開発等の統計作成においては、個人の権利利益を害するおそれ少なく、双方の公表・書面合意等の条件を満たす場合にデータの第三者提供に本人同意を不要とする特例を設ける内容で、一部野党からは激しい反対、批判を受けました。

しかし、我が国のA開発の深刻な遅れの一因はデータの二次利用が極めて困難な法制度にあり、個人情報の保護を重視することは当然として、その中でデータの利活用を推進するためには、入口規制から出口規制へと転換することが求められます。この点を丁寧に、丁寧に説明した結果、国会を通過させることができたことは個人的にも大きな自信となりました。一方で、委員会審議において私が約束したことをきちんと実行するために、改正案の成立後は個人情報保護委員会事務局と何度も会議を重ね、今後の同法の規則やガイドラインの策定を進めるよう大臣指示を出しました。



内閣府での退任式

プロフィールと活動

松本 尚 1962年6月3日生まれ
(まつもと ひさし)

日本医科大学特任教授 千葉県医師会顧問

昭和37年石川県金沢市生まれ。昭和62年金沢大学医学部卒業。救急医・外傷外科医。医学博士。日本医科大学特任教授。千葉県医師会顧問。日本医科大学千葉北総病院副院長・救命救急センター長を歴任。ドクターヘリの普及に努め、この分野での第一人者となる。ドラマ「コード・ブルー」のほか多数の医療ドラマを監修。千葉県災害医療コーディネーターとして同県のコロナ対策を主導した。

- 昭和62年 金沢大学第2外科学教室入局
10年間にわたり外科医として勤務
- 平成12年 日本医科大学救急医学教室入局
以後救急医・外傷外科医として勤務
- 平成13年 ドクターヘリ事業開始 **フライトドクター**として同事業を全国に普及する
- 平成20年 ドラマ「コード・ブルー」の医療監修
以降多数の医療ドラマの監修を務める
- 平成21年 NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」に出演
日本医科大学教授就任
- 平成26年 経営管理学修士(MBA)取得
(英国Anglia Ruskin大学)
- 平成29年 千葉県医師会理事就任
- 令和2年 産経新聞「正論」執筆メンバーに加わる

- 令和3年 第49回衆議院議員総選挙当選(千葉県第13区)
日本医科大学特任教授就任
- 令和5年 **防衛大臣政務官** 就任
千葉県医師会顧問就任
- 令和6年 第50回衆議院議員総選挙当選(千葉県第13区)
外務大臣政務官 就任
- 令和7年 **デジタル大臣** 就任
内閣府特命担当大臣(サイバー安全保障)
- 令和8年 第51回衆議院議員総選挙当選(千葉県第13区)
デジタル大臣 再任
内閣府特命担当大臣(サイバー安全保障)
内閣総理大臣補佐官 就任